

(メッセ海外通信 2008年7→9月号掲載記事)

～国際観光交流の促進について～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
藤川 雅宏

■日韓間の旅客実績が過去最高記録を更新

6月20日付け国土交通省九州運輸局の記者発表によると、平成19年度の九州・山口県(下関市)と韓国を結ぶ旅客定期航路の旅客輸送の実績は、総計で121万人を超え、過去最高記録を更新しました。特に、韓国人の輸送実績は、過去最高であった前年度をさらに上回り、対前年比121.8%と大幅に増加しているとのことです。6月21日には、釜山と門司港とを結ぶ定期フェリー便(週6便)が就航し、両国間の訪問者数について、今年度も増加傾向が継続するものと期待しています。

■政府による観光交流の促進と協力の強化

第3回日中韓観光大臣会合が6月23日に釜山で開催され、『日中韓の観光交流・協力の促進に関する釜山宣言』として纏められました。宣言には「日中韓の観光交流促進に向けた3ヶ国間の協力強化」、「日中韓の観光成長の阻害要因除去及び安全と利便の増進」、「3ヶ国共同での商品開発や広報の可能性を図るための情報交換実施」等の事項が盛り込まれています。

■釜山における6つの観光分野の推進

釜山広域市においては、クルーズ、海洋、医療、文化、生態系体験、ショッピングという6つの観光分野の推進が始まりました。来年1月までに「釜山観光公社」を発足させ、観光地としての魅力向上を目指します。6つの戦略的な分野について選択的に観光プロモーションが打ち出され、質的な管理及びマーケットの強化が図られます。一方、『映画(film)ーコンベンションツアー』ゾーン【釜山の東部】、『グリーン生態系』ゾーン【西部】、『歴史ー文化』ゾーン【中央部】の3ゾーンに市を分割し、各ゾーンにおいて観光インフラを大幅に改善し、また地区の観光関連産業の振興及び支援の強化が図られる計画です。同市は、2020年までに観光客400万人(2007年は167万人)、観光収入48億ドルへの引き上げ、20万の雇用創出を目標としています。(同市・英文ニュースレター『Dynamic Busan』7月1日号記事より要訳)

■観光交流圏の形成について

九州・山口県と韓国との間の日本人の旅客輸送の実績は16年度をピークに年々減少しています。しかし、釜山等の韓国・東南圏は、多彩な観光資源に恵まれており、前述のような地方自治体や民間セクターの計画的な取り組みや国レベルでの観光交流・協力の促進等によって、同圏内における日本人観光客の誘致が促進され、九州・山口県と韓国・東南圏間の交流がさらに活性化されることが期待されます。

古くから両地域の間は、地理的、経済的に密接な関係にあります。しかしながら、両地域間の交流に留まらず、国際的な共同プロモーション等の推進によって、両国に跨る当該地域全体が世界の観光客を迎える観光交流圏を形成することが共通の目標となるのではないかと考えます。各都市が共に勝者となるため、両地域の都市間におけるさらなる交流の促進及び協力の強化が必要とされる時代です。